

兵庫県立丹波医療センター

内科

指導担当医（役職）

見坂 恒明（地域医療教育センター長）

実習概要

概要

内科は一つとして診療しています。完全には臓器別には分類されない内科チームの中で、上級医・専攻医・初期研修医からなる主治医チームの一員として4週間実習を行います。基本的にはこの主治医チームと行動をともにします。学生1人当たり週に1名程度新規入院患者を担当します。また、病棟診療だけではなく、救急初期対応、初診外来の診療、訪問診療の同行、健診、丹波市の疾病予防活動への参加等、急性期から慢性期、疾病予防まで学ぶことができます。丹波医療センターの教育の根幹である、症例をもとにした臨床推論の勉強会、指導医による身体診察回診、豊富なレクチャーにも参加して頂きます。

医療面接

毎日、担当患者の医療面接と身体診察を行います。

初診外来、救急外来で医療面接と身体診察を行い、上級医に鑑別診断や行うべき検査、治療方針について考えを述べます。

身体診察

毎日、担当患者の身体診察を行います。

毎週2回ある指導医による身体診察回診に同行し、身体診察の極意を学びます。また、遠隔聴診システムで、指導医が聴取した音をリアルタイムに共有します。

カルテ記載

毎日、学生カルテに記載を行います。指導医が記載内容をチェックし指導します。

症例プレゼンテーション

指導医による身体診察回診時に担当患者のショートプレゼンを行います。

2週間に1回、担当患者をフルプレゼンテーションし、学生や指導医からの質問に答えます。

その他（特色など）

カルテ記載の方法、プレゼンテーションの方法などの正しい型は実習初期にレクチャーを行います。また、感染対策の実習も初期に行います。プロフェッショナリズムについて考えること、課題に対して文献検索を行うことなども行います。

学生へのメッセージ

丹波医療センターは教育に重点を置き、その実績も十分ある病院です。病歴聴取、身体診察からプロブレムリストを列挙すること、鑑別診断を考え検査計画を立案すること、基本的な検査結果の解釈、専門職としての態度・行動・倫理感、コミュニケーション技能、自己学習など 学生のうちに習熟しておくべき内容が、型に沿って、しっかり身に着きます。